

『はじめての100か月を保障する保育とは』

— 今、問われている保育の質を考える —

切り札として期待された子ども・子育て支援新制度が施行されて10年が経過しました。皮肉なことにこの10年間、少子化はますます拍車が掛かり、私たちが送り出した子どもたちの就学後に起きている不登校、いじめ、こどもの自殺が史上最高を毎年度更新しているというこどもの育ちの危機的現状、また、虐待の対応件数（令和5年225千余件）も史上最高を更新し続けている子育て家庭の現状はどうしたことでしょう。

たまりかねた国は一昨年4月に『こども基本法』を施行、その目的を実施する『こども家庭庁』を創設し、同年12月には『こども大綱』と『はじめての100か月育ちビジョン』を閣議決定しました。各自治体ではこの4月から『第3期子ども・子育て支援計画』を含む『こども計画』をスタートさせています。

こうした認識において『はじめての100か月の育ち』をど真ん中で担う私たち認定こども園の保育は、目の前のこどもの育ちを保障する保育になっているのでしょうか？ その使命を十分果たして子どもたちを小学校に送り出しているのでしょうか？ その責任をヒリヒリ感じながら考える研修会です。どうぞご出席ください。

1 日 時 令和7年9月9日（火）15：00～17：00

2 会 場 甲府市中道公民館会議室

3 講 師 山梨大学教育学部 教授 大野 歩 先生

4 定 員 80名 申込締切9月5日（金）

5 申 込 全国認定こども園協会マナブル から申込